
ジャックナイフ

広崎咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャックナイフ

【Nコード】

N9866R

【作者名】

広崎咲

【あらすじ】

僕と一緒に来たいなら、来てもいいよ。

僕のポケットにはジャックナイフが入っている。何のために？護身用じゃないよ。ヒント、僕は今からタクシーに乗る。え、もう分かったの？そうそう、今はやりのタクシージャックつて奴さ。バスジャックはもう古いしね。え？ジャックするから、ジャックナイフなのかって。ピンポン。その通り。僕は今からこのジャックナイフで、タクシーをジャックするのさ。

僕は18年間の人生でサッカーをしたことがない。野球もしたことがない。バスケも、テニスも、卓球も。鬼が僕にそれをする事を許さなかった。僕は生れた時から、2匹の鬼に支配されていた。鬼は僕に寢床を与えてくれるし、食事もくれる、服や生活必需品も与えてくれる。でも、僕が本当に欲しかったものは何一つくれやしなかった。両親からの愛情、子どもの自由、その他もろもろ。鬼は僕に「愛してる。」「大事だよ。」「一緒にキャッチボールでもするか。」「今日は何が食べたい？」とは言わず、「勉強しろ。」「いい大学に入れ。」「一流企業に就職しろ。」「親の顔に泥を塗るな」としか言わなかった。

さーて、タクシー乗り場についたよ。どのタクシーに乗ろうかな。なるべく、頑丈そうな奴がいいな。なに？君もついて来たいの？どうしよっかなー。ま、いいよ。きなよ。「旅は道連れ」って言うしね。それじゃあ、あのタクシーにしようか。ほら、行くよ。…もしかして、君も何か嫌なことがあったのかい。ああ、いいよ。わざわざ言わなくても。今の世の中なんて腐ってるからね。イジメ、虐待、レイプ、売春、ドラッグ、なんでもござれの世の中じゃん。

僕の人生は学校と塾と勉強部屋の3つの世界しか存在しなかった。元気に外で遊びまわるのが仕事のはずの小学生のころから、僕はひたすらに鉛筆を握り、ひたすらにノートに何かを書いていた記憶しかない。鬼の洗脳のおかげで、僕には誰一人として友達ができなかった。友達ができると、横にそれるから。鬼はとにかく僕をまっすぐ、自分たちの理想通りの息子に仕上げたかったのだ。その甲斐あってか、中学、高校と僕の成績は常に、学年トップだった。そして、僕は今日、東京大学に合格した。鬼たちは今日ばかりは喜んで僕のことをほめてくれた。僕は肩の荷が下りた思いで、自分の部屋に戻った。漫画の一冊もない、音楽のCDの一枚もない、参考書とリスニングCDしかない自分の部屋へ。そして、僕は引き出しのずつと奥からそれを取り出した。小学校の頃の修学旅行でニューヨークに行ったときに買ったそれを。僕はそれをポケットに入れると、両親に気付かれないように家を出た。

タクシーのドアが開いたね。あ、運転手のオジサンが僕たちをガン見してるよ。こいつら、乗るのか？って感じだね。うんうん、乗るよ、乗る乗る！はい、君から奥の方に乗ってよ。詰めて詰めて。ふう、やっと乗れたね。あ、タクシーのオジサンがなんか言ってる。どこまで行くのかって？そんなの、決まってるじゃん。そこで、僕はポケットからジャックナイフを取り出し、オジサンに突き付けた。「世界の果てまで」

タクシーは静かに走り出した。僕はジャックに成功したのだ。タクシーのジャックではなく、二匹の鬼に支配されていた僕の人生のジャックに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9866r/>

ジャックナイフ

2011年10月7日17時22分発行